

路地文化残る若者の街に幅26メートル大通り計画 揺れる住民たち

若者に人気の街「シモキタ」が揺れている。東京・世田谷区は小田急線下北沢駅周辺の再開発を計画中で、街のほぼ中央を貫く最大幅26メートルの道路や駅前広場を造るプランなどを進めている。これに対し一部の住民は「シモキタらしさがなくなる」と猛反発、変更を求める署名運動を始めた。下北沢は入り組んだ細い路地が特徴で、路地に若者向けの店が並んでいる。賛成派からは「消防車が通れるようにしてほしい」との声も上がっている。

シモキタ守って



命守って

「消防車入れない」

求める署名活動などを始めた。下北沢にゆかりの深い建築家や都市計画の専門家らでつくる「下北沢フォーラム」事務局ではシモキタらしさを壊さない方法を考えられないか」と世田谷区の計画に対する代替案を、今日6日から地元住民らが参加するワークショップを経て作成し、区に提案する予定だ。

若者たちでにぎわう下北沢の駅前商店街。区の計画では、この通りの先を大通りが横切る

文化が失われる



地名にはない

◆下北沢（しもきたざわ）東京都世田谷区内の小田急線と京王井の頭線が交差する下北沢駅周辺の通称で、同区北沢・代沢・代田周辺の地域。幅の狭い路地が迷路のように入り組み、雑貨店、古着店、生地店などのファッション関係の個人商店や、中古CDショップなどが密集する。小劇場やライブハウスも数多く、若者文化の発信地として知られ「ランキングでは常に上位に入る。昔ながらの八百屋や鮮魚店も点在する雑多な町並みも特徴的。

た結果1200通の回答があり、7割が広い道路は必要ないと回答。行政と地元の話し合いが必要という回答は76%に上った。この計画の変更を求めている。

また、地元住民らでつくる市民団体「セイブ・ザ・下北沢」は「下北沢は小さな商店がそれぞれ頑張っている、今のようないやな町並みや文化ができた。懇談会は地元住民の一部の声で、小さな店の多くは行政に反映されていない」と主張。「石原都知事に事業認可を出さないよう要望書を出したい」とも話す。

一方、計画を進めている世田谷区北沢総合支所では「長年、地元とも議論を経ていたので、方針は大きく変更しない。後戻りは考えにくい」としている。今年3月までに都の事業認可が下りれば、着工する予定だ。84年に地元の商店街関係者で立ち上げた「下北沢まちづくり懇談会」と、これまで1200回以上の議論を重ねてきたという。賛成派の地元住民からは「細い道が多く、消防車が入りづらい。地震など非常時の際に心配」と、大通りを造ることで防災面のメリットを指摘する声が出ている。下北沢では80年代に駅前のハンバーガーショップが全焼する火事があり、この時も消火活動の遅れが指摘されたという。

80年代店舗全焼 消火遅れた